



欄に数値またはコメントを記入

## 1. 建物概要

建物名称	多摩化学工業株式会社 掛川第二工場 新築工事	BEE	0.9	BEEランク	B-	★★
------	------------------------	-----	-----	--------	----	----

## 2. 重点項目への取組み度

重点項目	得点 <sup>*</sup> /満点	取組み度	評価
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	3.3 /5		ふつう
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)	3.0 /5		ふつう
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	2.4 /5		がんばろう
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	2.3 /5		がんばろう
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例 よい 4点以上 ふつう 3点以上 がんばろう 3点未満	

## 3. 重点項目についての環境配慮概要

各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。	内訳対応項目	
	得点	3.3
<b>"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)</b>		
■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) ④給水管VLP・VP 汚水排水管・通気管VP Eは不使用	Q-1 2 2.1 2.1.2 ① Q-1 3 3.1 3.1.3 ② 3.2 3.2.1 ③ Q-2 2 2.2 2.2.1 ④ 2.2.2 ④ 2.2.3 ④ 2.2.4 ④ 2.2.5 ④ 2.2.6 ④	外皮性能 昼光利用設備 昼光制御 躯体材料の耐用年数 外壁仕上げ材の補修必要間隔 主要内装仕上げ材の更新必要間隔 空調換気ダクトの更新必要間隔 空調・給排水配管の更新必要間隔 主要設備機器の更新必要間隔
■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上)	Q-3 1 3 3.2	⑤ 生物環境の保全と創出 ⑥ 敷地内温熱環境の向上
■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用) ⑦BPIm=0.58	LR-1 1 2 3 4 4.1 4.2	⑦ 建物外皮の熱負荷抑制 ⑧ 自然エネルギー利用 ⑨ 設備システムの高効率化 モニタリング 運用管理体制
■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) ⑪節水コマなどに加えて、省水型機器などを用いている ⑫躯体と仕上げ材が容易に分別可能なLGS工法と再利用できるユニット部材であるフリーアクセスフロアを採用している ⑬ODP=0かつGWP=10以下の発泡剤を用いた断熱材を使用している	LR-2 1 1.1 1.2 1.2.1 1.2.2 2 2.1 2.2 2.3 2.4 2.5 2.6 3 3.1 3.2 3.2.1 3.2.2 3.2.3	⑪ 節水 ⑫ 雨水利用システム導入の有無 ⑬ 雑排水等利用システム導入の有無 ⑭ 材料使用量の削減 ⑮ 既存建築躯体等の継続使用 ⑯ 躯体材料におけるリサイクル材の使用 ⑰ 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用 ⑱ 持続可能な森林から産出された木材 部材の再利用可能性向上への取組み ⑲ 有害物質を含まない材料の使用 ⑳ 断熱材 ㉑ 冷媒
■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善) ⑭ライフサイクルCO2排出率:80%	LR-3 1 2 2.2	⑭ 地球温暖化への配慮 ⑮ 温熱環境悪化の改善
<b>"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)</b>		
■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性)	Q-2 2 2.1 2.1.1 ⑯ 2.1.2 ⑯ 2.4 2.4.1 ⑰ 2.4.2 ⑰ 2.4.3 ⑰ 2.4.4 ⑰ 2.4.5 ⑰	⑯ 耐震性 ⑰ 免震・制振性能 ⑱ 空調・換気設備 ⑲ 給排水・衛生設備 ⑲ 電気設備 ⑲ 機械・配管支持方法 ⑲ 通信・情報設備
<b>"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)</b>		
■サービス性能対策 (⑲機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) ⑲壁長さ比率:0.12	Q-2 1 1.1 1.1.3 ⑲⑳ 3 3.1 3.1.1 ⑲ 3.1.2 ⑲	⑲ ユニバーサルデザイン計画 ⑲ 階高のゆとり ⑲ 空間の形状・自由さ
■室外環境(敷地内)対策 (⑲地域性・アメニティへの配慮)	Q-3 3 3.1	⑲ 地域性への配慮、快適性の向上
<b>"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)</b>		
■室外環境(敷地内)対策 (⑲生物環境の保全と創出/㉑まちなみ・景観への配慮/⑥敷地内温熱環境の向上)	Q-3 1 2 3 3.2	⑲ 生物環境の保全と創出 ㉑ まちなみ景観への配慮 ⑥ 敷地内温熱環境の向上
■敷地外環境対策 (⑲持続可能な森林から産出された木材/⑮温熱環境悪化の改善)	LR-2 2 2.5 LR-3 2 2.2	⑲ 持続可能な森林から産出された木材 ⑮ 温熱環境悪化の改善

# CASBEE<sup>®</sup> - 建築(新築)

## 評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版\_速報版 ■ 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2021SDGsv2.3.5

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	多摩化学工業株式会社 掛川第二工場 新築工事	階数	地上2F
建設地	静岡県掛川市川久保240-4、大坂字釜田7649-1	構造	S造
用途地域	用途地域指定なし、防火地域指定なし	平均居住人員	70 人
地域区分	6地域	年間使用時間	3,600 時間/年(想定値)
建物用途	事務所・工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2026年7月 予定	評価の実施日	2026年1月15日
敷地面積	3,418 m <sup>2</sup>	作成者	川田 久男
建築面積	1,441 m <sup>2</sup>	確認日	
延床面積	2,247 m <sup>2</sup>	確認者	



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 0.9** ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

46 (kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目目で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 2.6**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.2

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.0

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 1.7

**LR のスコア = 3.3**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア= 3.2

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.5

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.4

3 設計上の配慮事項		
<b>総合</b> 室内環境やサービス性能に配慮し、環境品質の向上に努めた ※これはCASBEE静岡(2021年版)による評価結果です。		その他 特になし
<b>Q1 室内環境</b> 使用建材全てにF☆☆☆☆製品を使用する事により、室内空気環境へ配慮している	<b>Q2 サービス性能</b> 空間の自由さを確保し、設備やプランニングの自由度が極めて高い	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> 敷地内に緑地を配置し、周辺環境の保全に努めた
<b>LR1 エネルギー</b> 適切な断熱材を施し、熱負荷抑制に努めた	<b>LR2 資源・マテリアル</b> 建物の節水性に配慮している	<b>LR3 敷地外環境</b> 光害対策に十分に配慮した計画

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■ 「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■ 評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される